

どうぶつこうえん ニュース



コツメカワウン



予定日を過ぎてても生まれない…本当に生まれるのだろうか？ 偽妊娠が多いと聞いているので半信半疑でした。

8月10日、獣舎の扉を開けるとかすかに聞こえる子猫？のような鳴き声！「生まれた！」と思わず声を出していました。親も仔も巣箱の中で見られませんが、イヌでもないしネコでもない初めて聞く鳴き声でした。

子供達と対面できたのは、生後2日目。見た目にもやわらかそうなライトグレーの毛糸玉に見入ってしまいました。両親は去年の夏、当園にやって来ました。

母：チイコ 松島水族館育ち 07/11/15生

父：ボンタ 徳山動物園育ち 06/12/25生

チイコ母さんは初産、子供達のお世話上手にできるのかとヒヤヒヤしながらの毎日で今日に至りました。とてもめん

どうみの良いお母さんをしています。

ボンタ父さんもお母さんに負けない位、めんどくまの良なお父さんです。若いお父さんは見習うと良いのでは？

コツメカワウンは食肉目カワウン亜科の哺乳類。

頭胴長：41～64cm 尾長：25～35cm

体重：2.7～5.4Kg

世界13種類の内、最も小さいカワウンでインド、スリランカ、東南アジア、中国南部、インドネシア、ボルネオ、パラワンに分布します。

10月1日お披露目のため9月28日お引越をしました。お引越は問題なくスムーズに終了。心配は取越苦労でした。ライトグレーの毛糸玉は、次第に黒味を帯びてきて今では親と同じ色になって親のミニチュアを見ているようです。

10月2日頃から時々子供達が顔を出すようになり、恥ずかしいのか遠慮がちに出たり入ったりしているかわいい姿がご覧いただけます。

最近、離乳がすすみ、午後のおやつのだじょうをあげた時には、両親の捕まえてくるのが間に合わず、大きい口を開けて3匹でとりあっている姿も見られます。

室内での夕食メニューは鶏頭、小アジ、ドックフード、キャットフードです。

体調、天候等によりご覧いただける時ばかりではありません。やさしく見守ってあげてください。

林まさ代(HAYASHI MASAYO)

目次

CONTENTS

表紙【フタユピナマケモノ】	①
トピックス【コツメカワウン】	②
フタユピナマケモノの人工哺育 パート2	③
飼育よもやま話	④
動物公園の動物	④
馬のひづめのヒミツ	⑤
動物公園の植物	⑥
動物公園日誌から【09.7/1～09.9/30】	⑦
サポーター会員募集のお知らせ	⑧
Information	⑧

表紙の動物説明 フタユピナマケモノ

表紙の写真は、現在人工哺育中のフタユピナマケモノの仔で1年3カ月が経過しました。今回も分類の話になりますが、現生ナマケモノは、ミユピナマケモノ科(3種)とフタユピナマケモノ科(2種)の2科に分類されます。当園では、現在飼育しているフタユピナマケモノ以外に、過去、ノドチャミユピナマケモノとホフマンナマケモノを飼育した経験があります。特にノドチャミユピナマケモノは、オス、メスペアで、ボリビア政府より1986年11月に導入し、オスは、2年10か月の飼育記録があります。

ミユピナマケモノ科の前肢の指は3本で、頸骨(けいこつ)は9個(通常哺乳類は7個)あります。一方、フタユピナマケモノ科の前肢の指は2本、ホフマンナマケモノの頸骨は6個、フタユピナマケモノで7個という分類上の違いがあります。

さらに目(もく)は、今までアリクイ科、ナマケモノ科、アルマジロ科ひとくくりで、貧歯目とされてきましたが、最新分類のカテゴリーでは、アリクイ科とナマケモノ科は有毛目、アルマジロ科は被甲目となっています。

貧歯目という、歯が殆どないように思えますが、ナマケモノには、第一臼歯に鋭い歯が生えています。

小林 正典(KOBAYASHI MASANORI)

写真撮影 宮川 千尋(MIYAKAWA CHIHITO)

動物飼育数

平成21年9月末現在の飼育数

哺乳類 66種 458点

鳥類 70種 299点

爬虫類 6種 29点

両生類 1種 2点

魚類 1種 2点

総計 144種 790点

フタユビナマケモノの人工哺育

パート2

フタユビナマケモノの人工哺育を始めてから、無事1年を迎えることができました。前回春号でお伝えできなかったその後について、今回はお話ししたいと思います。

私はナマケモノの仔どものことを“タマチン”と呼んでいました。それは私の娘がまだ母親のおなかの中にいる時に男の子か女の子が分からずに、私の奥さんが“たまちゃん”と呼んでいたことに起因しており、やはりナマケモノの仔がオスかメスか分からなかったことから、いつの間にかそう呼んでいました。

なかなか体重が増えず、試行錯誤の毎日でしたが、昨年の11月14日には一般公開を始めました。マスコミにも多く取り上げていただいたおかげで、たくさんのお客様が見に来てくれました。そのころにはすでに保育器を卒業し、展示室で夜も過ごしていました。しかしそんな矢先、しかも年も押し迫った12月31日に大変なことが起こったのです。タマチンは朝から何か様子がおかしく、フラフラして目つきもうつろでした。体も少し冷たくなっていたので、再び保育器に戻し、温めました。翌日の1月1日にはタマチンはこん睡状態となりました。抗生剤を飲ませ、酸素吸入もしましたが、ぐったりとして全く動かないタマチン。さまざまなことが頭をよぎり、悲しくて泣きたい気持ち必死で押さえていました。そしてその日私は職場に泊まり込み、一晩中タマチンの介抱をしました。“奇跡”。それは本当に奇跡を願うしかない状況でした。

翌2日もまだぐったりとしていたタマチンですが、すこし生気を取り戻してきたような兆候が見られました。か細く鳴いて、わずかながら腕を動かしたのです。次の日には少量ですが、自分でミルクも飲みました。その後も治療は続けられ、予断を許さない状況が数日続きましたが、タマチンは少しずつ体調を取り戻し、中断していた展示も2月から復活できる状態にまで回復していったのです。

そしてそのころから、夜間はナマケモノの親が飼育されているバードホールの一画（非展示エリア）にある施設で飼育するようになりました。ここは温度、湿度などバードホールと同環境にあり、将来タマチンが親たちと一緒に生活できるよう、馴らすことができます。こうして

タマチンは自主採食もするようになり、増えなかった体重がめきめきと増えていきました。

4月からは木のぼり練習も始めました。組み木を設置し、ロープも張り、そこで1日数分間練習させました。タマチンはこの訓練を嫌がり、すぐに私を頼るように鳴きだします。それでも横に渡した木やロープは上手に渡れるようになりました。

それからひとつ、人工哺育を始めてから体重や体長など様々なデータを取ってきましたが、排泄に関して興味深い知見が得られましたので、ご報告したいと思います。前回にもお話ししましたが、ナマケモノは1週間に1回くらいしか排泄をしません。その時にうんちとおしっこをまとめてします。排泄前はおなかパンパンに張っています。そして排泄後は一気に体重が減ってしまうのです。排泄量は最大で1340グラム、何とその時3550グラムあった体重が2210グラムにまで減ってしまったのです。体重減率（排泄量を排泄前の体重で割った数×100）はこの時で38パーセント、つまり体重の約3分の1以上が一気に減ったことを意味します。それが生態とはいえ、なんともすごい数字ですね。排泄の間隔は最少で1日、最大8日、平均すると5.1日でした。（データは7月31日までの結果です。）

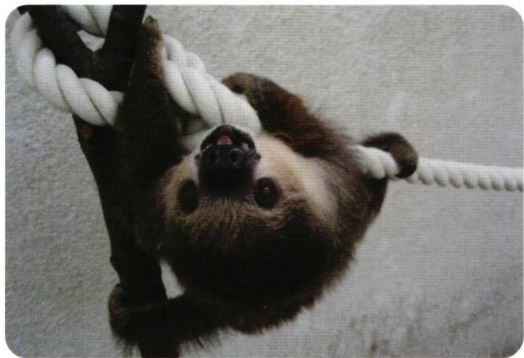
今年の7月19日をもって、これまでのフタユビナマケモノの国内人工哺育最長記録を超え、現在も更新中です。8月には人工哺育1年を記念して、園内でナマケモノ展を開催、人工哺育の経緯やエピソード、その他ナマケモノの生態などを紹介することができました。



ナマケモノ展

生まれて間もなく親から落ち、かすり傷一つなく発見された奇跡。そして病気で危篤状態になったにもかかわらず、そこから回復した奇跡。二度の危機を乗り越えたタマチンは、きっとこの世に大きな使命を持って生まれてきたのかも知れません。担当者というよりは親として、今後のタマチンの活躍を心から祈っています。「がんばれ!タマチン!」

伊藤泰志(ITO YASUSHI)



木のぼり練習



飼育よもやま話

ジェフロイクモザル

当園で、長寿動物といえば、このジェフロイクモザル。オスのライズは、1967年1月25日生まれ。現在42歳。メスのスイングは、1978年11月4日生まれ。現在31歳。2頭とも日本モンキーセンター（愛知県犬山市）で産声をあげました。はるばる千葉へやって来たのはちょうど開園の年、1985年3月29日。以来、現在までモンキーゾーンのサル比較舎で暮らしています。

ライズは体の色が全体的に黒っぽく、スイングは黄茶色っぽいので、みなさんもすぐに見分けられることでしょう。

飼育担当者を見ると、遠くからでも「ぴぴぴい〜」と声をかけてくれます。「こんにちは〜」と言っているようです。夕方、飼育の仕事を終えて、サル比較舎を離れる時、彼らに「おやすみ〜」と声をかけます。すると「ぴぴぴい〜」と返事があります。声のトーンが同じなので、まるで「おやすみい〜」と言っているかのようです。彼らには、私の話している言葉の意味はわからないでしょうが、明らかにコミュニケーションを図ろうとしているようです。

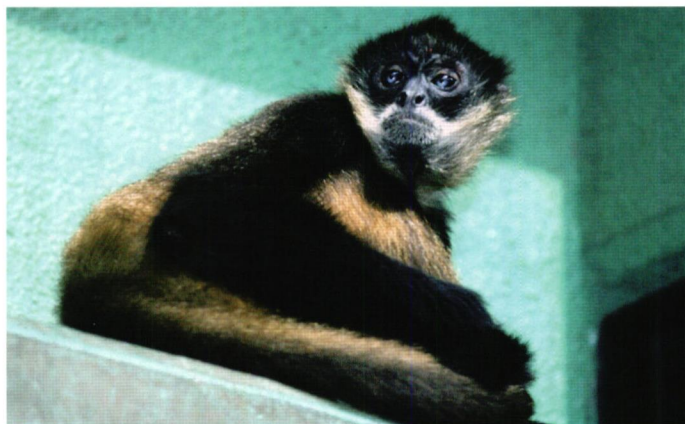
ジェフロイクモザルは南米のジャングルが生息地。5本目の腕といってもよい長い尻尾を使って、自由自在に木から木へと渡ることができます。そのとき滑り止めの役目をしているのが尾紋（びもん）。尻尾の内側にあり、そこだけ毛が生えていません。人間の指紋のように見えることから「尻尾にある指紋」→「尾紋」と呼ばれるのです。

また、普段はほとんど樹の上で暮らしているため、スムーズに木から木へと渡れるように前肢は4本指。小学生の頃、校庭にあったウンティを早く渡ろうと、親指を人差し指にピタッとくっつけて、いわゆる「順手」で渡って行った記憶はありませんか。クモザルもそうしているうちに前肢の親指が必要でなくなったのかもしれない。

当園のサル比較舎は、かなり間近で観察できるような造りになっています。ぜひそうした「尾紋」や「前肢の指の数」をじっくり確かめてみてはいかがでしょうか。

とても賢く、また、ユニークな特徴をもつジェフロイクモザルのライズとスイング。これからもずっと長生きしてもらえたらと願っています。

高橋宏之 (TAKAHASHI HIROYUKI)



動物公園の動物

“草原の掃除屋”アフリカハゲコウ

アフリカハゲコウはアフリカ大陸に広く分布していて、現地では普通に見られるそうですが、日本の動物園ではあまり飼育されていません。当園ではこれまでに8羽のアフリカハゲコウを飼育してきました。現在、展示場ではオスとメスのペアを飼育しています。

アフリカハゲコウの最大の特徴は、何といてもはげている（正確には羽毛がまばらにしか生えていない）頭でしょう。野生のアフリカハゲコウの主な餌は屍肉で、そのため「草原の掃除屋」と呼ばれています。動物の死体に顔を突っ込んだときに死体の血で羽毛が汚れるのを防ぐためにこのはげ頭が発達したと考えられています。はげ頭に加えて、30cmにもなる大きなくちばしをもっている大型（最大で体高1.5m、体重9kg、開翼長2.9m）の鳥となれば、お世辞にもかわいいとはいえない容貌をしています。

ですが、そんなアフリカハゲコウを一躍有名にした事件がありました。2009年4月、ペアのうちのメスが展示場から飛び出て、園外に逃げ出してしまったのです。それまでの展示場には覆いがなく、そのため鳥が飛んでいかなないように定期的に捕獲して、羽根を切っていました。しかし、少しその間隔が空いてしまったため、羽根が生えそろう、飛ぶことができるようになってしまっていました。動物公園にとっては一大事！職員総出で捕獲に乗り出しました。市民の皆様のご理解、ご協力もあって、無事に捕まえることができ、動物公園に戻すことができたのがなによりでした。

それまでこの二羽には名前はないでしたが、この“騒動”のおかげ(?)で、公募によりメスには「アフリン」、オスには「アフロン」という名前をつけてもらいました。また、来園者の方にもよく足を止めて見てもらえるようになりました。

現在、展示場の上部はネットで覆われています。そのため、もう捕まえて羽根を切る必要はなくなりました。捕まえて羽根を切るのは、どうしてもハゲコウにとってはストレスになっていたようなので、それでは二羽の繁殖もあまり期待できませんでした。一緒に寄り添っていることが多く、もともと仲のよいペアなので、環境さえ整えば繁殖が期待できます。そのために今後いろいろと工夫をしていこうと思っています。

堀 泰洋 (HORI YASUHIRO)



馬のひづめのヒミツ



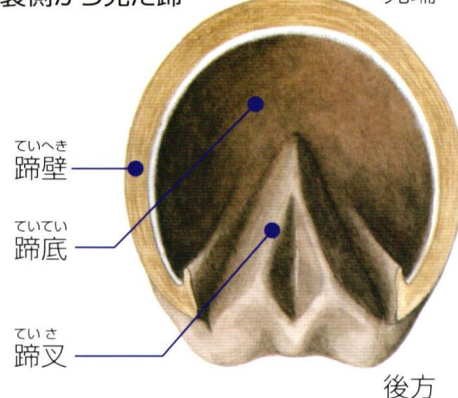
ウマは哺乳類の中で、奇蹄目きていもくというグループに分けられます。奇蹄目という字の通り、「奇数の蹄を持つ」動物の仲間です。ウマには1本の足につき、1つの蹄があります。ウマ以外には、ロバ・シマウマ・バクが奇蹄目に分類されます。反対に、1本の足に偶数の蹄をもつ哺乳類を偶蹄目くうていもくと言い、ウシやシカ、ブタなど、蹄を持つ哺乳類のうちの多くがあてはまります。

蹄というのは、人間の爪にあたる部分が変化したもので、主にケラチンというタンパク質でできています。ウマが立っているときに外部から見え、ぐるりと蹄を囲む部分を、蹄壁ていへきと言います。乾燥などで蹄が痛むと、ここがヒビ割れてしまいます。次に、蹄を裏側から見てみると、意外と複雑な構造をしている事がわかります(図1)。後方にある三角形の部分は蹄叉ていさといい、ゴムのような弾力で、地面からの衝撃をやわらげるクッションの働き・蹄が滑るのを防ぐ働き、堅い蹄を広げたり縮めたりして血行を良くする働きなどがあります。広くくぼんだ部分は蹄底ていだいで、地面をしっかり捉える役割があります。

<図1>

裏側から見た蹄

先端



後方

<図2>

横から見た断面図

中節骨

末節骨

蹄壁

蹄底

蹄叉

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

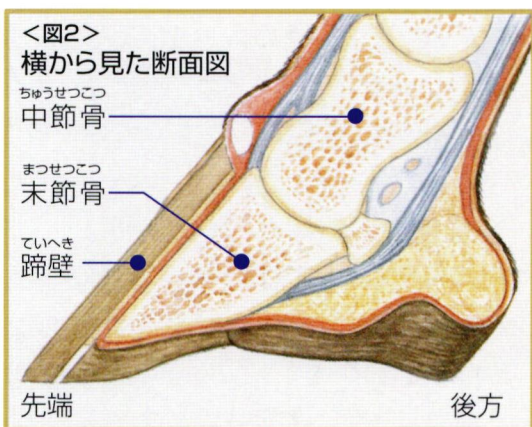
蹄底

蹄底

蹄底

蹄底

蹄底



先端

後方

続いて、蹄の内部の構造を見てみましょう(図2)。蹄の中(足の先端)にある骨は、人で言う、中指の爪の下にある骨です。そう、ウマは、人間で言えば中指1本で立っているのです。ウマの祖先は3~4本指でしたが、より速く走るため、また、体が大型になるに従い、他の指が退化しました。残ったのは中指、それと小さな薬指の名残です。

千葉市動物公園では、子ども動物園内で3頭のウマを飼育しています。それぞれペルシュロン・道産馬(どさんば)、シェトランドポニーという品種で、体格・性格ともに違いがありますが、3頭とも同じように毎日、午前と午後の2回、飼育係が蹄の手入れをします。

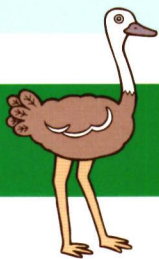
毎日の手入れでは(写真)、ウマに足を上げさせ(飼育係が指示すると、ウマは1本の足を曲げながら上げ、裏側を見ることができます。)、鉄爪(てっぴ)という道具で蹄叉の溝などに詰まったゴミを取り除きます。水を使ってブラシできれいに磨き、タオルでよく水気を切ります。最後に蹄油という蹄を保護する油を、表面全体に塗ってできあがり。この手入れの際に、蹄の欠けたり割れたりした部分を、鎌やヤスリを使って整えますが、2か月に1度はプロの削蹄師さんに園外から来ていただいて、伸び過ぎた部分を削り、キレイな形にしてもらっています。中でも、体重約750kg、重種馬であるペルシュロンのヤエちゃんは蹄も大きいので、グラインダーを使って削ります。

蹄は病気に掛かりやすく、その状態には常に気を使います。4本の足のうちの1つでも蹄の状態が悪くなると、ウマは立って歩く事ができなくなり、そうすると、まず自然界では生き延びられません。家畜のウマであっても長くは生きられないため、蹄のメンテナンスはウマの命に関わる大事な作業なのです。

午後の蹄の手入れは、毎日3時頃、子ども動物園内の牧場で行っていて、その様子をとても近くでご覧頂くことができます。運が良ければ、ウマに触るチャンスもありますので、是非見にいらして下さい。

宮崎沙都(MIYAZAKI SATO)





動物公園の植物

芝 Turf

レストラン脇の広場に芝を張りました。千葉市をホームタウンとするジェフ千葉が活躍するフクダ電子アリーナから運ばれた芝です。

この広場は長いこと裸地でしたが、実は以前の園内マップでは「芝生広場」と表記されています。長年の使用と辺縁部の樹木の生長による日陰化で芝が枯れてしまいました。晴れた日は良いのですが、裸地化により表層の土が流失し、関東特有の赤土土壌ですので雨が続きたりするとしばらく使用できなくなったり、冬場の霜の時期には歩くことさえ困難な状況でした。

今回、再芝生化を検討するにあたりフクダ電子アリーナを管理するシミズオクト・東洋グリーン蘇我球技場共同事業体のグランドキーパーさんに芝の管理について相談をしたところ、「今度、フクアリの芝を張り替えるので、撤去する芝でよければ張りましょうか」というご提案をいただき、お願いした次第です。もとより一度芝がダメになった場所。「一度、再利用芝で維持方法についてトライをしてみても？」というご提案でした。



芝生広場オープンセレモニーの1コマ

6月初旬に芝を張るのに合わせて、繁っていた辺縁部の樹木を剪定しました。そのまま入梅となりますので、いわゆる「閑散期」に入ることもあり、そのまま9月12日のオープンまで約3ヵ月間「芝養生中」としてじっくり寝かせました。フクアリのグランドキーパーの方には、施工後も頻繁に足を運んでいただきご指導をいただきました。

現在では、開園と共にお弁当を広げる場所として真っ先に場所取りで埋まってしまうような人気のスポットになっています。

なお、張られている芝は南関東以南のサッカー場で使用されているティフトンという夏芝と、冬場はオーバーシードという技法でペレニアルライグラスが使用されていますので、冬場も緑で覆われることになります。

まだ芝を張って半年ですので使用開始とともにやはりかなりダメージを受けています。しばらくの間は定期的に養生期間を設けて、何とか芝を維持して行ければと思います。ご迷惑をおかけしますが、未永く使える「お弁当広場」を作り上げる為您ご理解をお願いいたします。

せっかくなので、芝についてもう1題。

先日、ある動物カメラマンの方から「展望デッキの前の草原ゾーン展示場の山の緑はどうやって維持しているのですか。大変でしょう。」というご質問をいただきました。率直な回答は「何もしていません。」とお答えしました。オープン当初は当時飼育スタッフだった私も含めてかなり苦勞をして管理してきましたが、定着した今はほぼ野放図状態。

ここで利用されている芝はセンチピートという種類で、和名をムカデシバといい、ランナーが太く、肥大化すると本当にムカデのような姿となります。この太いランナーが地上を重なり合って匍匐(ほふく)してゆくので、成長するとがっしりと表土を抑え込み、多少の動物の踏圧や採食圧にも耐えてくれます。



展示場の山に立つダチョウ

そんなに強い芝ならば、先述の広場もこの芝にしたら?とお考えかもしれませんが、強い分非常に硬くてチクチク痛い芝なのです。まあ何事もTPOが大事ということなのでしょう。

清田義昭 (KIYOTA YOSHIKI)



動物公園日誌から

'09年7月1日～'09年9月30日

- 7月3日 シマウマ類、全頭に腰麻痺予防薬投与。
オグロプレーリードッグ、仔6頭同時に青草を食べていた。
- 7月4日 カリフォルニアアシカ、ドン(雄)とミュウ(雌)と一緒に泳いでいた。
ドンがミュウを抱きかかえたり交尾のようなかんじであったが、交尾は確認できず。
アミメキリン、サツキ(雌)が竜王(雄)と一緒に木の葉を食べるようになる。
- 7月5日 ミーアキャット、展示場に新しい餌台(お立ち台)を設置。
アミメキリン、サツキ(雌)が何かに驚き通路を引き返し展示場を走り回る。アジム(雌)を連れて行き落ち着いたところと一緒に収容する。
- 7月7日 シロガオマーモセット、繁殖(2頭)。
- 7月8日 マンドリル(雌)、No.9 性皮が膨らみはじめる。
千葉聖心高等学校(5名)、職場体験実施(9日まで)。
- 7月9日 フンボルトペンギン、体重測定。
- 7月12日 アメリカビーバー(仔4頭)、レントゲンを使用し性別判定を試みるが判定できず。
- 7月13日 シロガオマーモセット、繁殖(3頭)。
マレーバク(雄)、破傷風予防接種。
- 7月14日 ヒワコンゴウインコ、親、威嚇行動が強く放飼場に出たがらない。
- 7月16日 ワオキツネザル(雌1)、ワタボウシパンシェ(雄1)を伊豆シャボテン公園へ搬出。
ホオジロカンムリツル(3羽)、伊豆シャボテン公園より搬入。
- 7月18日 動物のFACE & BACK展開催 8月30日まで
- 7月19日 マレーバク、バックヤードツアー実施。
- 7月20日 ヒワコンゴウインコ、10:30より雛を含め3羽を放飼場へ出す。夕方、扉を開けておくと雛も部屋に入る。
本日より日本ベッ&アニマル専門学校生(1名)、飼育実習(31日まで)。
- 7月21日 エリマキキツネザル、No.40(雌)を展示のペアと一緒にしてみる。
雌同士で闘争。夕方にはNo.40を予備室に戻す。
- 7月22日 アメリカビーバー(仔4頭)、体重測定。ラン(4174g)、リン(3562g)、ルン(3572g)、ロン(2962g)。
サマースクール、本日より3日間実施
3、4年生(22日、23日) 5、6年生(24日)。
- 7月27日 千葉市西警察署付近で保護されたカワウを異常が認められないため稲毛ヨットハーバーに放鳥。
- 7月31日 シロガオマーモセット、朝、仔が1頭床に落ちており体重が35gしかなく弱っていたため親に戻さず人工保育とする。
- 8月1日 ナマケモノ展開催。
- 8月6日 チンチラ(雄2)、上野動物園へ搬出。
チンチラ(雌2)、上野動物園より搬入。
- 8月7日 ハシビロコウ、産卵。
- 8月9日 夏休みの宿題に役立つ動物のお話1開催。
- 8月10日 コツメカワウソ(3頭)、繁殖。
ダチョウ、新設の小屋へ入れる。



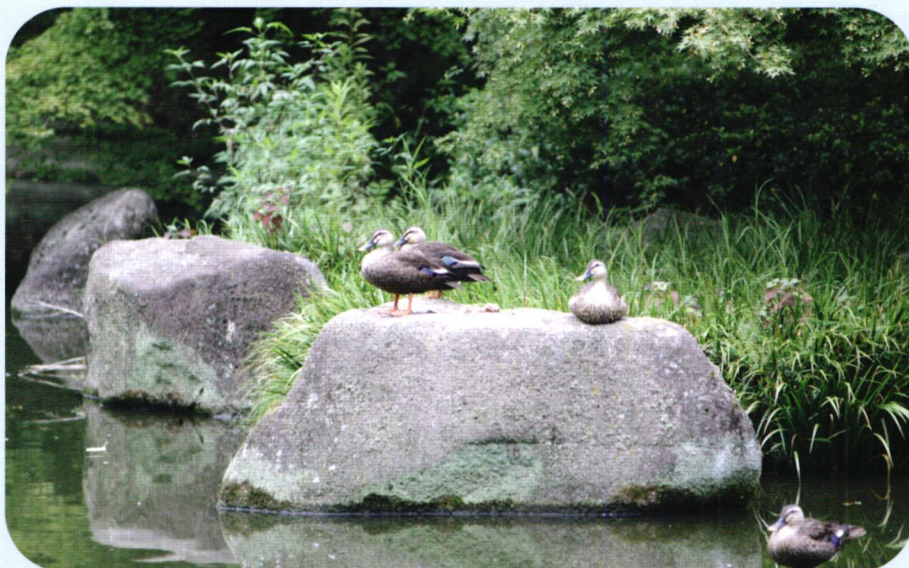
- 8月13日 そごうキッズアカデミーに参加。
- 8月14日 オランウータン、雄と雌が仲良く遊んでいた。
- 8月16日 オランウータン、屋内展示室の一部をペンキ塗装する。ナナ(雌)入室後怒る。
マレーバク、バックヤードツアー実施。
夏休みの宿題に役立つ動物のお話2開催。
- 8月17日 マンドリル(雌)、右手を使っていない。
- 8月18日 キクユコロブス(雌)、死亡。
マンドリル(雌)、捕獲し麻酔下でレントゲン撮影。骨折のため入院。
- 8月21日 ニシゴリラ(ゴロ)、葉をこしあんに入れパンに挟み与える。
- 8月22日 ニシゴリラ(ゴロ)、整腸剤、栄養剤等を与える。
Zooキッズデー開催。
- 8月23日 ハシビロコウ、同居放飼の雄雌がかなり接近していた。
- 9月1日 カワウソ(仔3頭)、順調に成長している。
エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割実施。
- 9月2日 アルダブラゾウガメ(雄)、死亡。
- 9月6日 **エジプトハゲワシ、ダチョウの卵割実施。**
- 9月7日 ワオキツネザル、展示の雄同士、闘争。
マンドリル(雄)、午前中、何かに怒り吠えている。
オオカンガル(キチ)、左後肢の小指あたりが腫れている。
- 9月8日 オオカンガル(キチ)、左後肢に体重をかけない。
- 9月13日 ショウガラゴ(No.102)、右手の骨折の疑いのため、麻酔下でレントゲン撮影、修復後、固定する。
ワンポイントウォッチング(アフリカハゲコウ)。
- 9月14日 アメリカビーバー(仔4頭)、レントゲンにより性別判定を行う。すべて雄であった。
- 9月19日 ワオキツネザル(コボ、雄)がミイ(雌)に追い回され朝の餌をほとんど食べられず。
マンドリル(雌)、麻酔下で退院。
- 9月20日 折り紙教室開催。
- 9月22日 アフリカハゲコウ、本日より終日放飼する。
- 9月25日 マガモ、サカズラガン、換羽始まる。
- 9月28日 コツメカワウソ、子どもの展示準備のため展示個体を入れ替える。
シロオリックス(雄)、多摩動物公園より搬入。
シロオリックス(雌)、多摩動物公園へ搬出。
- 9月29日 シロオリックス(雄)、昨日到着の個体、落ち着いており食欲もある。
コガモ(雄1、雌1)、新着。



編集後記

今年も落ち葉と木枯らしの季節がやってきました。園内は、例年子どもたちに好評の落葉プールが始まり、11月に開催したZOOフェスタ・2009の面影を残すステージがクリスマスへと移り変わりました。動物たちもこれから迎える寒さへの準備も始まりました。寒さの中、春に誕生したアメリカビーバー、夏のコツメカワウソと水の中を泳ぐ動物たちが元気良く泳ぐ姿が見られます。寒さをしのぐには、動物科学館の中の動物やクリスマス、お正月と季節にちなんだクラフトで楽しんでもいただければと思います。ぜひ冬の動物公園へもお出掛け下さい。

どうぶつこうえんニュース編集委員



大池の野鳥

動物取扱業者標識

①氏名又は名称	千葉市
②事業所の名称	千葉市動物公園
③事業所の所在地	千葉市若葉区源町280
④動物取扱業の種別	展 示
⑤登 録 番 号	第50015号
⑥登 録 年 月 日	平成19年7月30日
⑦有効期間の末日	平成24年7月29日
⑧動物取扱責任者	飼育課長 小林正典

千葉市動物公園 Chiba Zoological Park サポーター会員募集

(財)千葉市動物公園協会では、動物に関する知識と動物愛護の精神を普及することを目的に「サポーター会員」を募集いたします

年会費(入会日～翌年入会月末) 個人会員 10 千円
法人会員 10 1万円

オリジナルグッズプレゼント♪ サポーターズデイに無料ご招待

お問い合わせはTEL043-252-1111

法人サポーター会員

(順不同)

(株)動物公園協力会
千葉県米穀(株)
(株)さわらび
ジェノスグループ(株)
大西総業(株)
(株)ニッセイアド
千葉都市モノレール(株)
利根コカコーラボトリング(株)
エバタ株式会社
東急建設(株)
(株)小棚組
(財)千葉市国際交流協会
玉山商会
(株)和光物産商会
(株)新星医薬商事
(有)カンダ事務機
千葉商工会議所
久野インターナショナル
(株)加藤緑化土木
ノザキ建工(株)
関東70-ス(株)
日東パシフィックベンディング(株)
(株)石綿竹松商店
(株)AQUA
(株)シューエイ商行
神光エンジニアリング(株)
千葉市建設コンサルタント協会
(株)環境技研コンサルタント
(株)久世
(株)的場
千年杉建設(株)
(株)伊藤工務店
(有)三栄舗装工業
(社)千葉市観光協会

(21年11月現在)

i

Information

平成21年12月～平成22年3月の催し物一覧

12月 6日(日)	ワンポイントウォッチング⑦(アジアスイギュウ)
12月20日(日)	クリスマスシアター
1月 2日(土)・3日(日)	お年玉プレゼント(先着200名のお子様)
2月 7日(日)	バードウォッチング
3月14日(日)	ワンポイントウォッチング⑧(コツメカワウソ)
3月21日(日)	Zooクイズラリー

詳しくは <http://www.chibazoo.net/>でどうぞ。

どうぶつこうえんニュース第74号

平成21年12月1日発行

編集
発行

千葉市動物公園 <http://www.city.chiba.jp/zoo/>

(財)千葉市動物公園協会 <http://www.chibazoo.net/>

〒264-0037 千葉市若葉区源町280番地 280 Minamoto-cho Wakabaku Chiba-city Japan

[総合案内] TEL 043-252-1111